



名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター NO. 50

2018年4月6日発行

野外観察園に咲き始めたソメイヨシノ (3月23日撮影)

シリーズ Artist Earth を始めるにあたって

足立 守

2007年4月～7月、第11回企画展として、『地球は玉手箱 誕生石の魅力』を開催しました。その時の展示物の一部が、現在も「誕生石コーナー」として残っています。この誕生石企画展の時に、“Artist Earth”という言葉デビューさせました。その背景としては、地球の自然物（動物・植物・鉱物）は形も色も美しく、人間の創造力を越えたものがたくさんあり、“地球は芸術家”（The Earth is an Artist）という意味で、“Artist Earth”という言葉を作りました。今回のニュースレターから、“Artist Earth”について紹介したいと思います。これは「自然に学ぶ」の延長線上のものです。シリーズ Artist Earth の第1回は十字石という鉱物です。

Artist Earth (1)

右下の写真のこげ茶色の鉱物（横約8cm）は十字石です。十字石の結晶が中心から上下左右に成長してできました。鉱物学や結晶学では、2つ以上の結晶が、規則正しい方位で接合している場合、これを双晶（twin）と呼びます。

十字石（staurolite）は双晶がしやすい鉱物の一つですが、このように大きく見事なものはごく稀です。十字石は2つの結晶が90°あるいは60°で交わって、十字の双晶になることがあるので、ギリシャ語で十字架を意味する stauros から名前がつけました。

昔のキリスト教徒は、十字石は神様が作った十字架でお守りになると信じていました。十字軍の兵士が十字石を身につけて戦争に出かけたという話は有名です。

企画展「春を迎える 年画にこめられた願いと意図」関連企画

1. ギャラリートークのお知らせ

4月16日（月）午後1時より

この企画をすでにご覧になった方も多いと思いますが、今回は展示品だけではなく、所蔵の年画を多数ご覧頂きますので、ぜひ、足をお運び下さい。

（解説：野崎ますみ）

2. ワークショップ 「年画を刷ってみよう」

4月21日（土）・24日（火） 午後1時～3時

（両日とも同じ内容です）

中国天津市楊柳青から、本場の版画師：韓祖音さんが来日されます。巧みな技術をご覧になれる他、実際に版画の刷りを体験することもできますので、ぜひ、お越し下さい（担当：野崎）

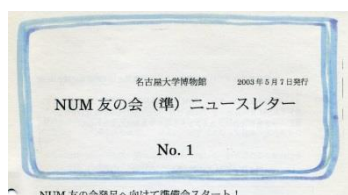


NUM友の会の集いのご案内

2018年6月9日(土)

❖ 講演会 13:00~14:00

「みんなで撮ったミクロの世界—電子顕微鏡と地域貢献と名古屋大学博物館」



野崎ますみ

名古屋大学博物館の歩みや電子顕微鏡と地域貢献の関わりを、電子顕微鏡の写真やクイズを交えてご紹介します。

名古屋大学博物館は、21世紀を目前に控えた2000年から発足しました。当初は、月に数回の開館でした。その後、現在のように火曜日から土曜日までの開館となり、友の会の皆様にも受付、記録写真などをご協力頂いています。友の会は、2003年の春に準備委員会が発足し、2004年6月5日に正式な活動を始め、その年の会員は60~70名だったと思います。現在は約500名の会員がいて、友の会も随分大きくなったと思います。

また、地域貢献事業のミクロの探検隊は、2007年から始まり、毎年100人以上の参加者がありますので、延べ1000人以上の方が、電子顕微鏡の世界を楽しんで頂いたことになります。他には地球教室も大人気のイベントです。

今回は電子顕微鏡写真を交えながら、博物館の歩みや活動をご紹介しますので、どうぞ気楽にご参加下さい。

❖ NUM友の会総会 14:00~14:30

活発な意見交換をお願いします。

❖ ミニコンサート 14:30~15:30

「ウングレスカ」

様々な古楽器や民族楽器を使って中世ヨーロッパの音楽を演奏している楽団です。とても古い音楽なのに新鮮な音色が心地良く響き、遠い異国の音楽なのにどこか懐かしさを感じられる、そんな音楽を皆様にお届けしています。主な演奏曲は以下の通りです。メンバーは右に。

- ・アルフォンソ 10 世編纂 聖母マリアのカンティガ集より 13 世紀スペイン
- ・トワノ・アルポー著 オルケソグラフィ（舞踏記譜法）より 16 世紀フランス

サテライト展示のご案内

「みんなで撮った ミクロの世界」

開催期間：5月21日(月)~8月31日(金)

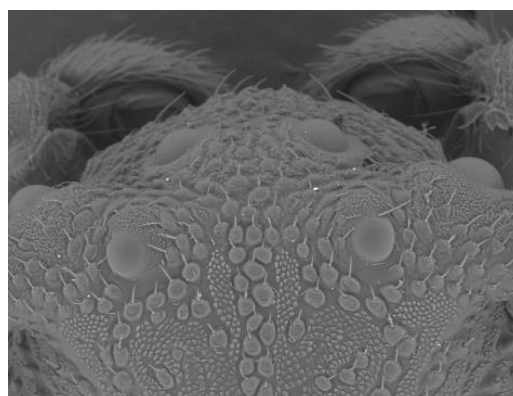
休館：土・日・祝日、8月11日~14日(夏期休暇)

開催場所：野外観察園セミナーハウス2階

博物館では、2007年よりミクロの探検隊[®]を開催しています。そこでは毎回、小中学生を中心に参加者自身で3台の電子顕微鏡を使ってミクロの世界を撮影します。ミクロの探検隊[®]の主なプログラムは3つあります。1つ目は、博物館の大きなコレクションをしめる「微化石放散虫」を使ったものです。放散虫は単細胞のプランクトンですが、酸化ケイ素の骨格を持っているため、化石として保存されやすく、年代を決める示準化石となります。2つ目は、ヒトの体にも繋がる「ほ乳類の組織」です。組織の機能と形を学びます。3つ目は、夏休みに行う「ムシ」です。これは自分で採集した虫を電子顕微鏡で観察できるので一番人気の高いプログラムとなっています。今回は、参加者の電子顕微鏡写真を中心に展示し、生きものの美に迫ります。(担当：野崎)

下の走査型電子顕微鏡の写真は「ハエトリグモの頭部」です。

(担当：野崎)



♪
 ♪
 ♪
 メンバー(主な担当楽器) ♪
 山田はるっぺ(リコーダー) ♪
 浜田和明(バイオリン) ♪
 櫻井陽子(ハーディ・ガーディ) ♪
 山田ケイ(パーカッション、ハンマーダルシ
 マー)

写真サークル写真展開催のお知らせ

丹慶勝市

2018年4月5日(木)～5月11日(金)

(ただし土曜・日曜・祝日を除く)

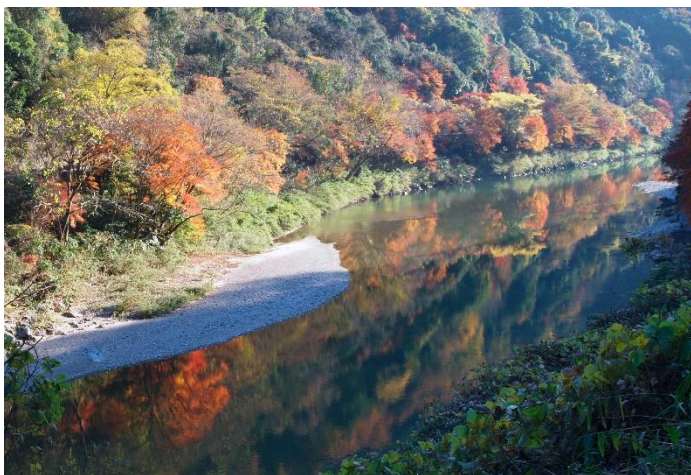
時間：10時～16時

場所：野外観察園セミナーハウス2階

発足してから2年目となる写真サークルでは、上のように、第4回の写真展を開催しています。

年を追うごとにサークル会員のレベルは着実にアップし、各自のテーマもしだいに広がっています。今回の写真展でも、トリやチョウ、トンボをはじめ、ツキミソウ、フジ、モミジなどの動植物、冬山や棚田、川、湖などの風景、お祭りや身近な風物詩・・・といったように、テーマは多彩です。日頃の研鑽の成果を問うべく、個性あふれる力作27点を展示し、ひとりでも多くの皆さんがお越しになるのをお待ちしております。

なお、この写真展の終了後、展示作品の一部を本山のSAKURA CAFE(地下鉄本山駅2番出口から徒歩2分、電話052-789-1110)に移し、引き続き6月末まで写真展を開催します。セミナーハウスでの写真展を鑑賞する機会がなかった方はもちろんのこと、もう一度、鑑賞したい方は、是非こちらの写真展にもお越しください。



展示作品『川面に映える錦』(撮影：丹慶勝市)

会費の納入について

会費納入がまだの方はよろしくお願ひします。なお、4月6日現在で未納の方には、改めて「振込依頼書」を同封しましたが、既にお支払の節はご容赦ください。

NUMCo 報告

野崎ますみ

第72回、73回の名古屋大学博物館コンサートを開催いたしました。72回は箏と尺八の演奏で、現代曲China China Chinaなど、中国琵琶と



聞き間違えるほどの素晴らしいテクニックに圧倒されました。

また、73回は愛知芸術大学の院生によるピアノとソプラノの演奏で、たっぷりクラシックを聴きました。その若々しい活気ある音や声、一生懸命に取り組む初々しさに、いかにも春を感じました。



♪次回のコンサート♪

7月14日(土)午後2時より

南米パラグアイのハープ アルパの風

小栗康子他

「カニのハサミ」(仮題)展に合わせて、海に関連のある曲も演奏いたします。担当：野崎

訂正

ニュースレターの先月号(49号)3頁の「ポタニカルアート作品展開催のお知らせ」の記事で、「11年目を迎えました。」の箇所は12年目の誤りでした。お詫び申し上げます。

シャンソン講座報告

講師 山本雅世

シャンソン講座は、2009年2-3月に開講された「シャンソン入門コース」をきっかけに、2010年4月より定期講座として活動しています。入門コースから数えますと今年で10年になります。取り上げたシャンソンも50曲を越えました。現在20名の会員が楽しく歌っております。

今年度の講座で特筆すべきは、昨年9月に有志でライブハウスでのPetit Concert (プチ・コンサート 小さな演奏会)を開いたことです。本格的な音響・照明の整った舞台上、14名の受講生がこの日のために練習したシャンソンを披露しました。満員の客席からの拍手をいただき感激のステージでした。また、この日の演奏は、撮影業者に撮影を依頼し、テレビ番組のようなDVDを作成していただきました。よい思い出ができました。

また、今年の講座では、これぞシャンソン!と言われる「パリの空の下」をフランス語で練習しました。1951年のフランス映画「パリの空の下セーヌは流れる」の挿入歌です。印象的なルフラン (リフレイン) のワルツですが、万葉集の時代から五七調になじんできた私たちは、6音節+6音節 (つい5音節+7音節になってしまう) のメロディーにフランス語をのせるのに四苦八苦しました。

♪歌った曲目♪

バラ色の桜と白いリンゴの花、パパと踊ろうよ
アコーディオン弾き、恋はみずいろ

過ぎし夏のワルツ、ルナ・ロッサ、パリの空の下
4月からは、2018年度のシャンソン講座が始まります。今年、イヴ・モンタンの歌でおなじみの「セ・シ・ボン」、リシュエンヌ・ボワイエが歌った「聞かせてよ 愛の言葉を」などを歌う予定です。毎月第3土曜日10:15-12:15、3階講義室で楽しく歌っております。どうぞ見学にいらしてください。

野外観察園 2018 春

吉野 奈津子

寒さがゆるみ、一気に植物たちも芽吹き、花を咲かせています。コブシ、ボケ、モモ、キブシが3/23現在満開です。これらの手前にレンギョウ2種、カンザキアヤメ、ヒメリュウキンカ、パイモ、クリスマスローズも咲いています。春ですね。

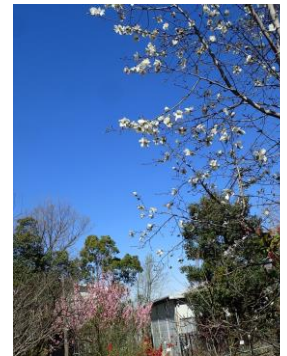
ボケやコブシの咲き始めは、待っていたかのように鳥に食べられていましたが、最近は花が増えたので被害も落ち着きました。ヤマザクラと思われる全然芽吹かない枝は、枯れたのではなく芽がかじられておりました (右写真3/23撮影)。

ソメイヨシノは被害なく花を咲かせています。若木だからなのか、味の違いなのかは分かりませんが、食べるならばどうぞ大木のソメイヨシノでお願いしたいものです。

赤色のナンテンやセンリョウなどは真っ先になくなります。マンリョウ

は冬の終わりまで残っています。味が劣るのか葉の陰で見えにくいのかもかもしれません。個人的にいただけないのはトウネズミモチ。鳥にはおいしいようで、必要以上に種子をばらまいてくれます。あちこちで芽生え、すぐ大きくなるので抜くのが大変です。

色のついた果実がなくなると最後に白いセンダンの果実を食べているようです。鳥は人間が見える「赤・緑・青」に加えて「紫外線」も認識できるそうです。鳥たちの春はどんな世界なのでしょう？



名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付
電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)
Eメール：jimu@num.nagoya-u.ac.jp アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

年会費 1000 円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は 500 円 (次年度は 1000 円)

家族会員制度あり (同居の家族 1 名まで)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会